



安川電機 (6506)

2005年3月期 決算説明会(要約)
(2005年5月10日)

説明者 取締役社長 利島 康司

1. 2004年度(2005年3月期)決算概要…………… 1 - 4 頁
2. 2005年度の課題と取り組み…………… 5 - 10 頁

当社の事業概要および名称

システムエンジニアリング: (S)

2004年度売上 449億円

【主要製品】
上下水道用電気計装システム
鉄鋼プラント用電機システム、新システム機器等

【主要子会社】
安川モートル

情報 (東証2部上場の2社で構成)

2004年度売上 254億円

【主要子会社と製品】
・ワイイーデータ
レーザー応用システム
コンピュータ周辺機器 等

・安川情報システム
情報処理ソフト・サービス

その他

モーションコントロール: (M)

2004年度売上 1,229億円

【主要製品】ACサーボモータ、コントローラ、リニアサーボ、インバータ等

【主要子会社】
・安川エンジニアリング
・安川コントロール
・米国安川電機 (米国)
・欧州安川電機 (ドイツ)
・安川電機 (上海) 有限公司 (中国)

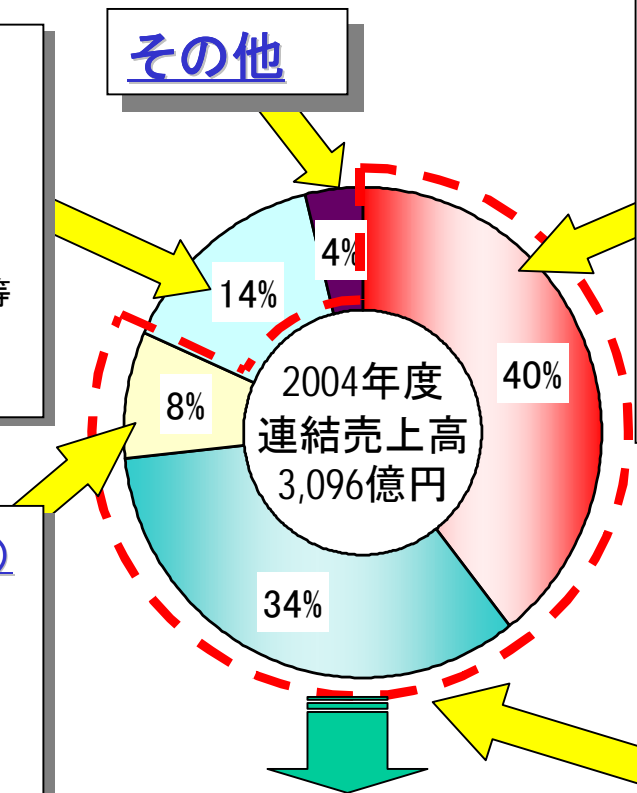


ロボティクスオートメーション: (R)

2004年度売上 1,051億円

【主要製品】
・INR (産業用ロボット): アーク・スポット溶接・塗装ロボット、
フラットパネルディスプレイ (FPD) 搬送ロボット
・SER (半導体製造装置用ロボット):
半導体製造装置用クリーン・真空ロボット等

【主要子会社】
・モートマン (米国)
・モートマン ロボティクスヨーロッパ (スウェーデン)
・モートマン ロボテック (ドイツ)
・シナティクス ソリューションズ (米国)



当社のコア事業である
メカトロ事業に注力
(売上高の82%)

[注記]: メカトロ事業とは、モーションコントロール、
ロボティクスオートメーション及び情報の
各セグメントを指す。

2004年度決算のポイント

1. 売上高、営業利益、経常利益はいずれも過去最高

売上高3,096億円、営業利益175.2億円、経常利益174.1億円

【従来の過去最高】

売上高 1997年度 2,686億円、営業利益 1997年度 133.6億円、経常利益 2003年度 120.1億円

2. (R)が売上を大きく伸ばし、初めて売上高1,000億円突破

(R)売上高:前期比246億円増(31%増)の1,051億円

3. (M)の売上が拡大する中で、採算も大きく改善

(M)売上高:前期比178億円増(17%増)の1,229億円、
営業利益:前期比2.3倍の91.2億円

4. 海外売上高が増加

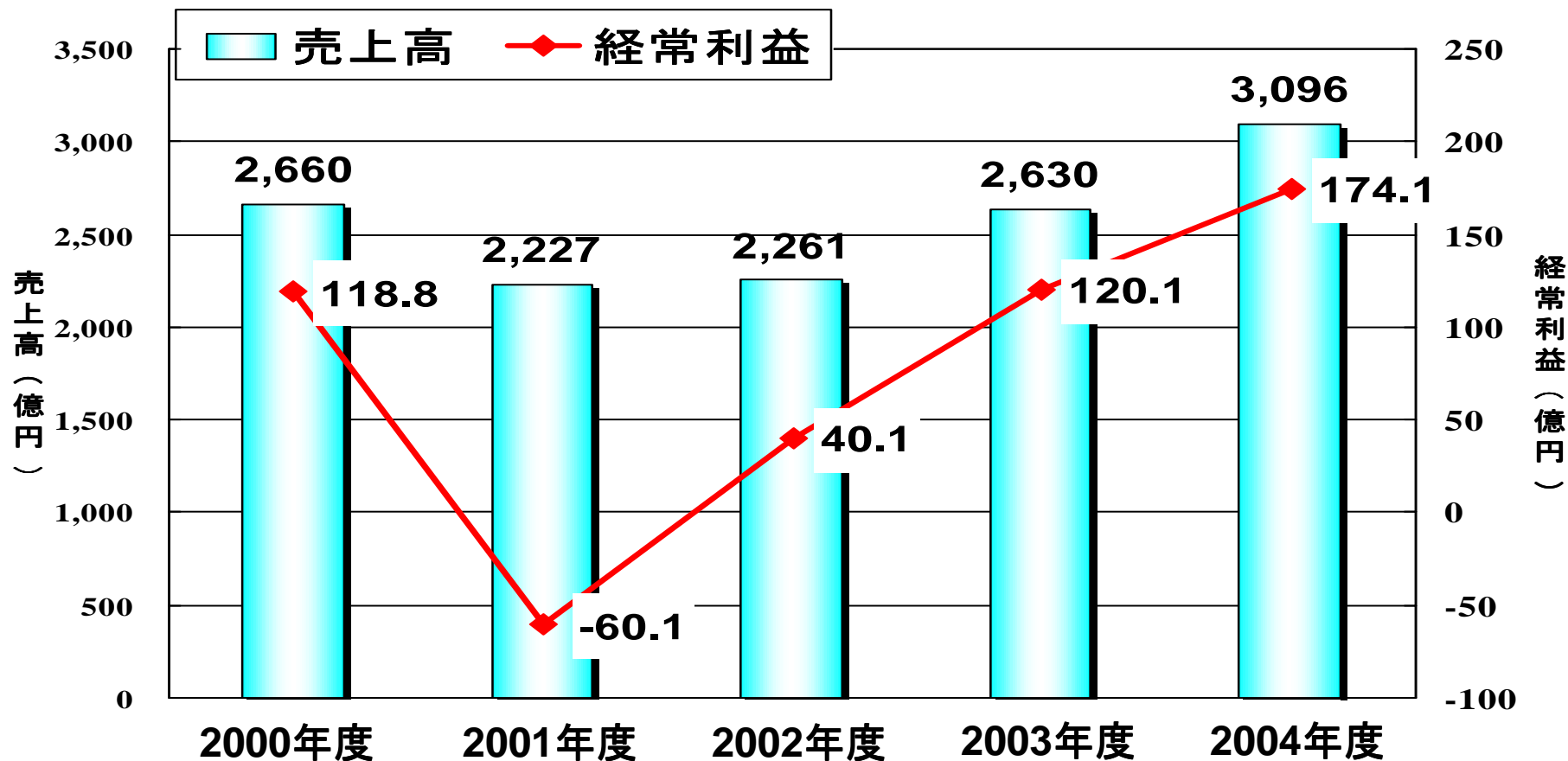
前期比317億円増(32%増)の1,302億円、
海外売上構成比率が前期の37%から42%に拡大

5. 当期純利益は減少

米国子会社の営業権減損の影響で、前期比39.5億円減(68%減)の18.6億円

売上高、経常利益の推移

V字回復から、持続的成長・高収益化の段階へ

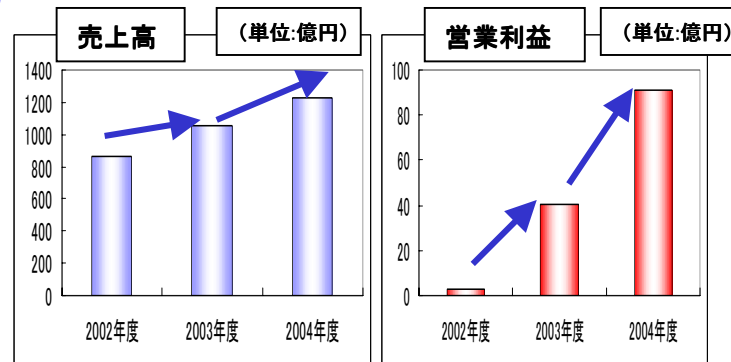


2004年度セグメント別決算概要

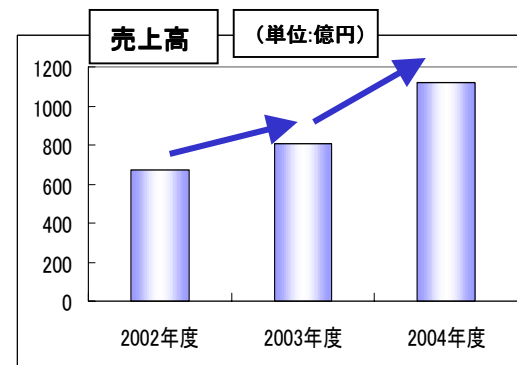
(単位: 億円)

セグメント		2003年度	2004年度	前期比 増減
(M)	売上高	1,050	1,229	+178
	営業利益	40.3	91.2	+50.8
(R)	売上高	804	1,051	+246
	営業利益	52.6	72.8	+20.1
(S)	売上高	403	449	+45
	営業利益	9.5	▲20.9	▲30.5
情報	売上高	244	254	+10
	営業利益	11.7	15.0	+3.2
その他	売上高	127	111	▲15
	営業利益	10.7	17.3	+6.6
合計	売上高	2,630	3,096	+465
	営業利益	124.0	175.2	+51.2

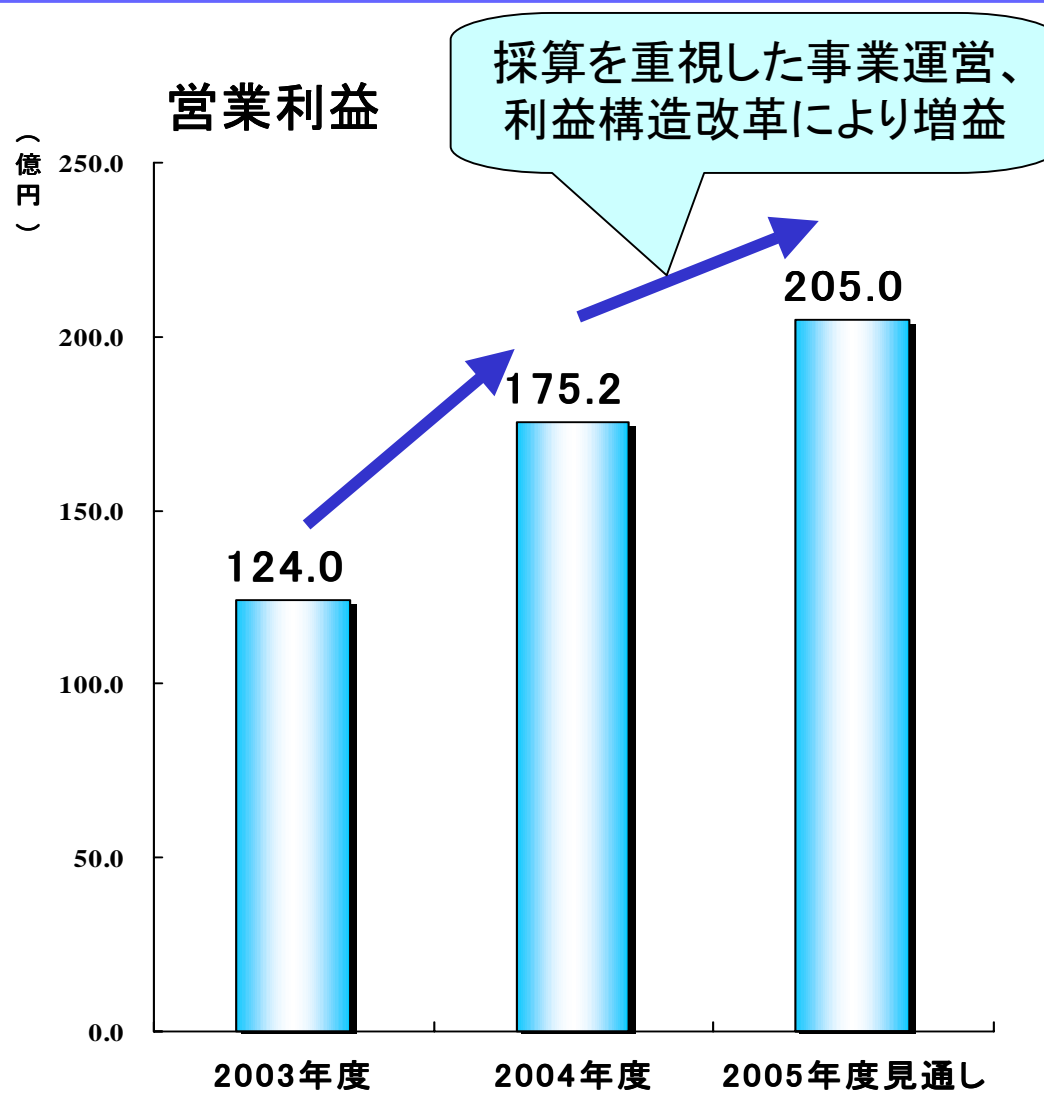
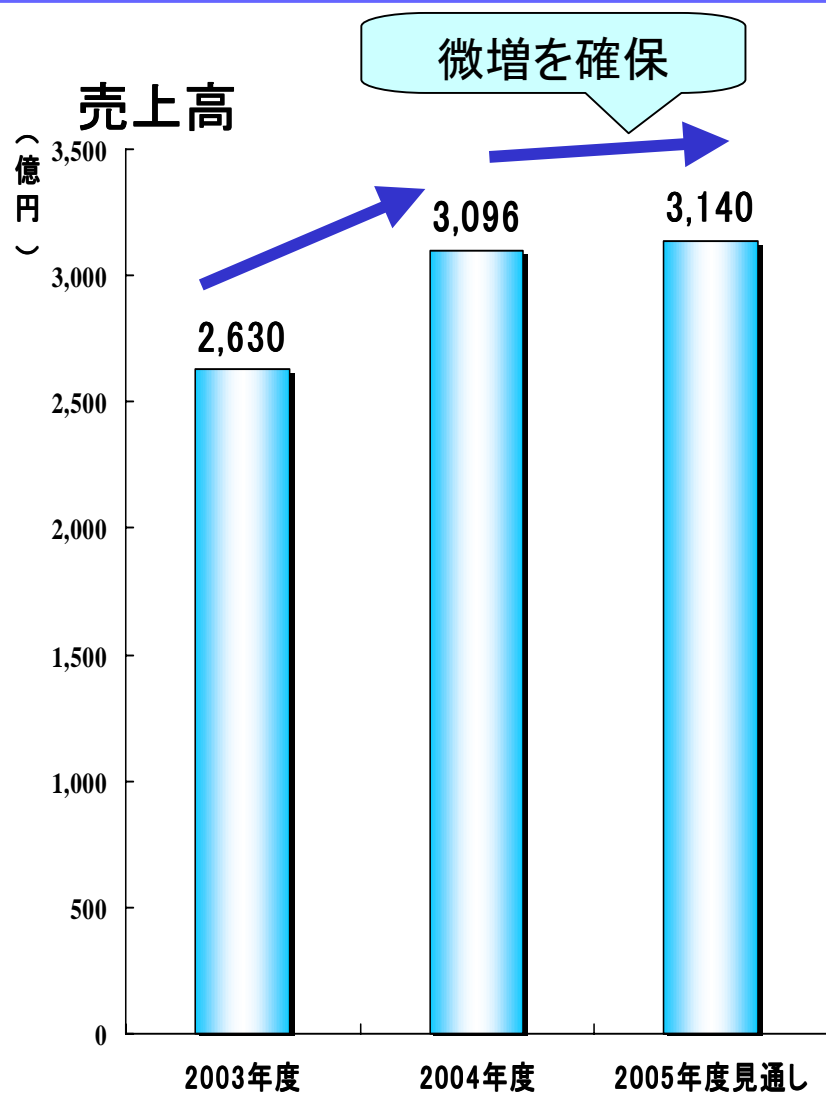
(M)の売上高が拡大
する中で、採算が大きく改善



(R)の売上高が大きく拡大



2005年度の連結業績見通し



2005年度連結業績見通しのポイント

1. 売上高は微増ながらも、採算改善が進み17%の増益 (過去最高を更新)

売上高 3,140億円(前期比1.4%増)

営業利益 205億円(同17.0%増)

経常利益 200億円(同14.9%増)

2. (S)は利益構造改革により黒字体質へ転換

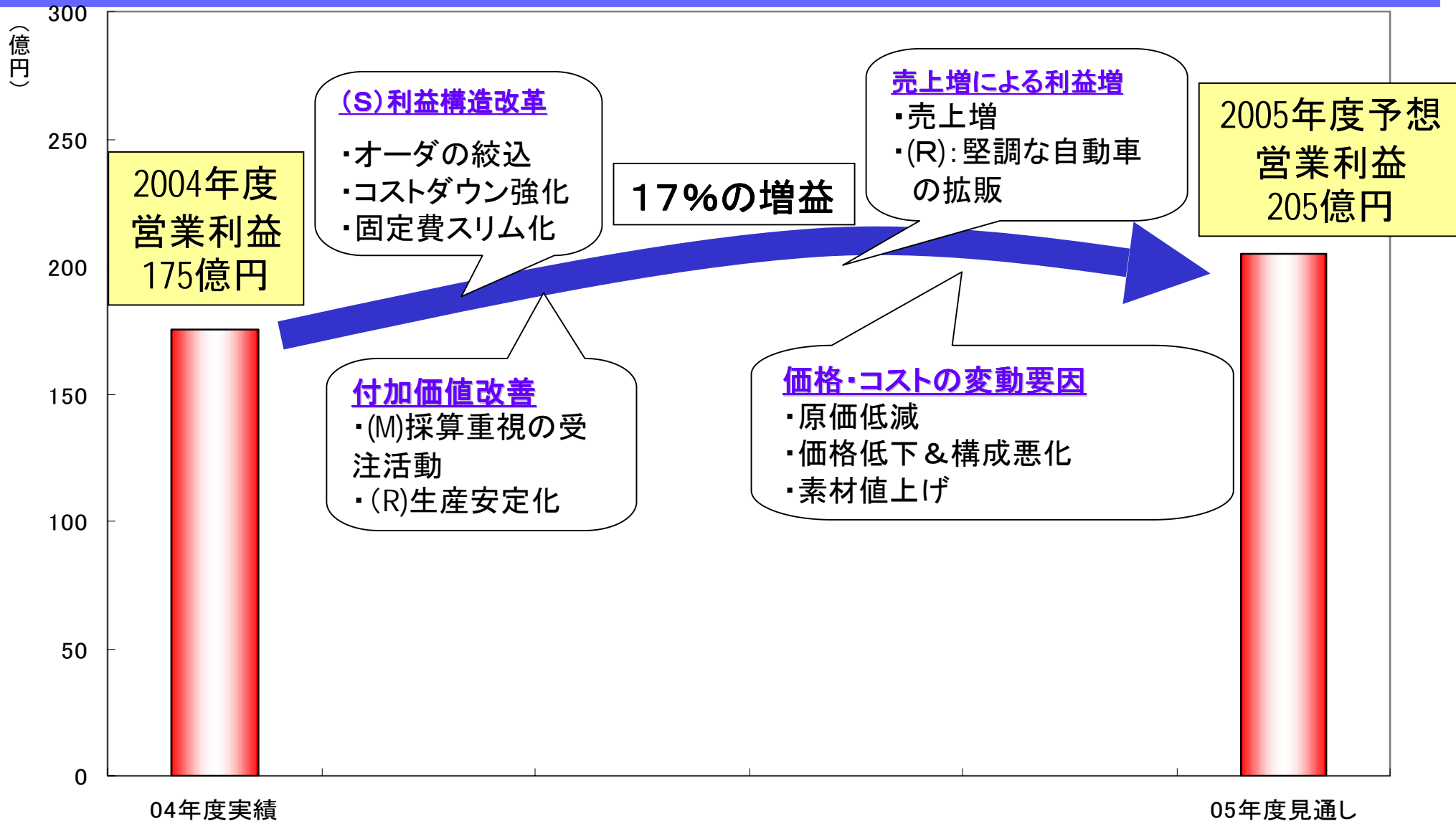
3. (M)は採算重視の営業活動に注力

4. (R)は自動車市場を核に増収増益を持続

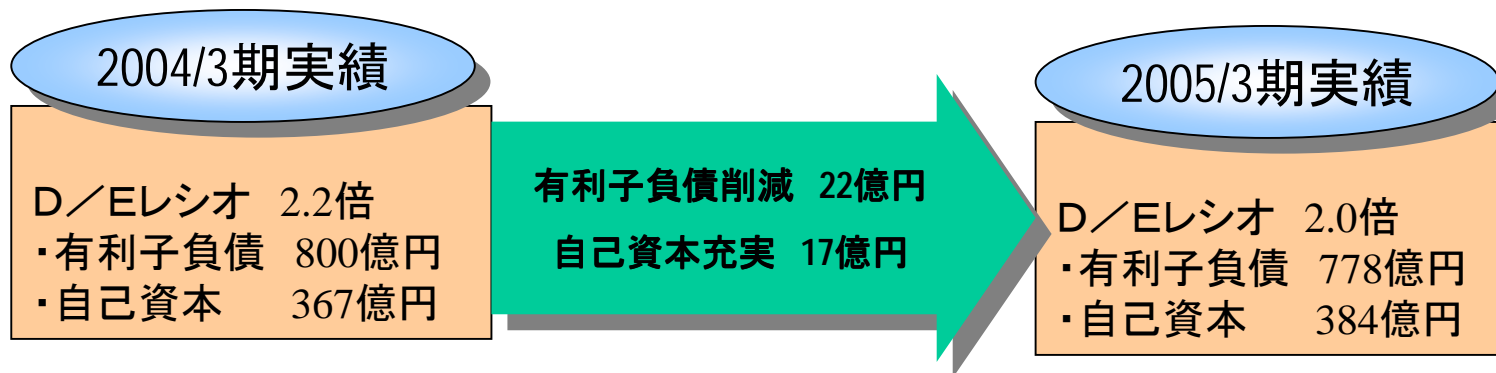
5. アジア・中国市場への拡販強化

2005年度利益増減内訳(連結:概算)

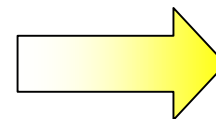
(2004年度比、年間)



B/S構造改革(連結)

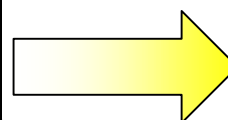


	2004年3月 実績	2005年3月 実績
有利子負債	800億円	778億円
自己資本	367億円	384億円
D/Eレシオ	2.2倍	2.0倍



2006/3期
D/Eレシオ1.4倍まで
改善する見通し

連結棚卸資産	543億円	527億円
回転期間	2.5ヶ月	2.0ヶ月



売上増加局面でも
回転期間を確実に短縮。
2006/3期 2ヶ月以下へ。

リスク要因

①市場環境

半導体・液晶関連市場について、2005年度上期期初からの回復を想定しているが、調整局面が長引く恐れがある。

②原材料・部品価格のさらなる上昇

想定範囲内にとどめるよう最善の努力をしているが、引き続き強い値上げ圧力を受けており、利益圧迫要因となる恐れがある。

③為替円高による影響

想定以上の円高の進展により輸出の減速や利益が減少する可能性がある。

2004年度下期実績 1ドル＝106円 1ユーロ＝136円

2005年度為替想定 1ドル＝105円 1ユーロ＝135円

注記

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等影響と与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。